

表層型

メタンハイドレート 講演会

開催日時 2023年12月19日(火)
13:30～15:30 (開場13:00)

会場 上越文化会館
上越市新光町1丁目9番10号

参加 先着80名 参加費無料 事前申込

アクセス 車：北陸自動車道上越ICより約5分
電車：えちごトキめき鉄道はなうまライン春日山駅より徒歩4分



講演1 「産業技術総合研究所における 表層型メタンハイドレートの研究開発の取組み」

講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギープロセス研究部門
総括研究主幹 天満 則夫 氏

講演2 「表層型メタンハイドレート回収技術の 研究開発最新動向(仮)」

講師：国立大学法人 東京海洋大学 特任准教授 青山 千春 氏

参加申込書 下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

会社名			
役職			
フリガナ			
お名前			
住所	〒		
メールアドレス	電話番号	参加人数	名

●お申込み締切：2023年12月14日(木)

■お申込み：表層型メタンハイドレート講演会運営事務局（株式会社新交企画内）

お申込み専用FAX：025-245-3218

■問合せ先：新潟県 創業・イノベーション推進課 新エネルギー資源開発室

TEL：025-280-5257 E-mail：ngt050030@pref.niigata.lg.jp

主催：新潟県 後援：上越市



燃える氷



メタンハイドレート

って



知っていますか？

メタンハイドレートとは

メタンハイドレートは、低温・高圧の状態で結晶化した水分子のかごの中にメタン分子が入り込んだもので、一見すると、色が白く、触ると冷たい、氷のような物質です。

氷のように見えるメタンハイドレートに火を近づけると、発生したメタンガスが勢いよく燃えることから、メタンハイドレートは「燃える氷」と呼ばれることがあります。

日本には石油や天然ガス、石炭などのエネルギー資源が少なく、今、私たちが使うエネルギーの90%以上を海外から輸入している状況の中で、メタンハイドレートは、日本の近海に大規模な量が存在すると推定されており、新しいエネルギー資源として注目されています。

また、燃やした時に、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や大気汚染物質である窒素酸化物などの排出量が石油や石炭よりも少ない天然ガスは世界的にも需要が伸びています。

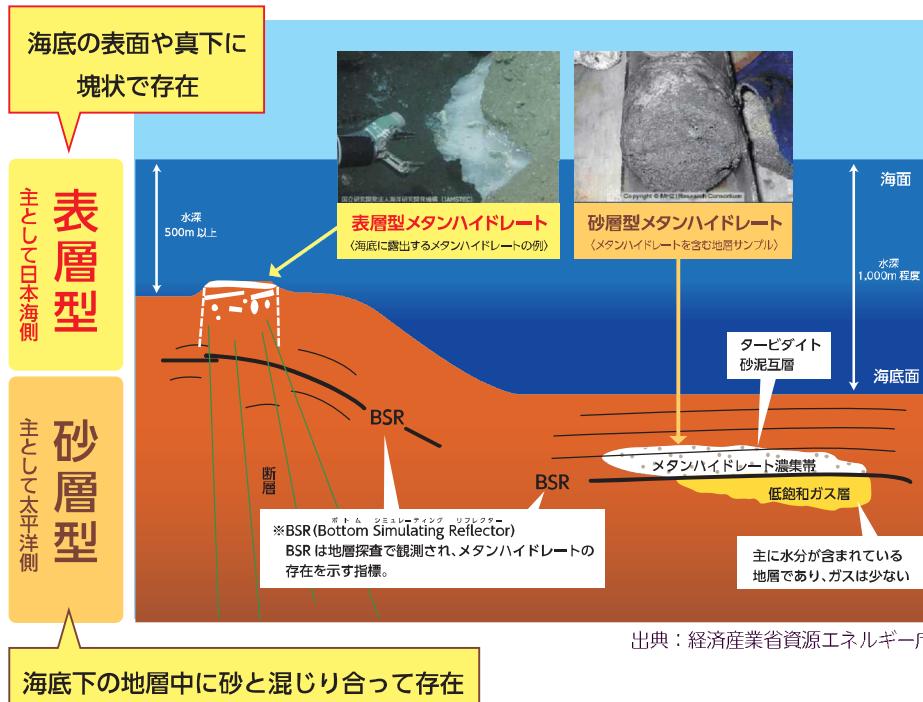
メタンハイドレートの開発は研究段階で、私たちの生活で利用されるようになるまで、まだ時間が必要ですが、国産の次世代エネルギー資源として、その開発を着実に進めていくことが重要です。



出典：メタンハイドレート
資源開発研究コンソーシアム

メタンハイドレートの2つのタイプ

経済産業省によって行われた調査では、日本海側には海底の表面や真下に「表層型」と呼ばれる塊状態のメタンハイドレートが、太平洋側には海底下の地層の中に砂と混じりあった「砂層型」と呼ばれるメタンハイドレートが存在していることが分かっています。



出典：経済産業省資源エネルギー庁

経済産業省が資源量把握のための調査を実施し、その結果、表層型メタンハイドレートの分布が見込まれる構造（ガスチムニー構造）が1,742箇所存在することが確認されました。また、そのうちの1箇所（上越沖）のガスチムニー構造での推定資源量は、国内の天然ガス消費量の2日分にあたる約6億m³（メタンガス換算値）と試算されました。

現在、経済産業省において、表層型メタンハイドレートの回収技術の調査研究が進められています。